



2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦 TWIN RING MOTEGI SUPERBIKE RACE

TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

6月10日(土曜日) 天候：晴れ 路面:ドライ
公式予選／9番手
6月11日(日曜日) 天候：晴れ 路面:ドライ
決勝／5位
開催地：栃木県・ツインリンクもてぎ（1周=4.801379km）
入場者数：1万2900人（2日間合計）

全日本ロードレース選手権は、シリーズ第4戦を栃木県・ツインリンクもてぎで迎えた。今回は、今シーズン初めてTOHO Racingとしてエントリー。国内最高峰のJSB1000クラスは、鈴鹿2&4レース（200km）、SUGO200mileレースとセミ耐久で争われてきたが、今回より純粋なスプリントレースとなった。

今シーズンよりニューモデルとなったHonda CBR1000RR SP2を走らせる山口だが、まだまだ、そのポテンシャルを引き出せずにいる。鈴鹿、SUGOと課題となっていた部分、今シーズンより変わった17インチタイヤとの合わせ込みなど、新型ならではの初期セットに時間を費やしていた。SUGOラウンドは、天気もよくなく、セットが進まなかった。ツインリンクもてぎの事前テストで走ってみると、抱えている課題が浮き彫りになって来る。



レースウィークは、全セッションドライコンディションとなったが、初日は、いきなり課題となっている部分が原因で転倒を喫してしまう。その課題となっている部分をセッティングやライディングでカバーできる範囲で試行錯誤して行くが、根本的な解決にはならず、レースは厳しい戦いになることが予想された。

ノックアウト方式で行われた公式予選は、Q1で全車が出走。金曜の2本目に1分50秒200を出していたが、路面温度が上がったため、フィーリングが変わってしまい、なかなかタイムアップできないでいた。そのためQ1でタイヤをもう1セット使いタイムアタックし、何とか1分50秒734を出し8番手に入り、Q2に進出した。ユーズドで走らなければならなかったQ2では、最初にノックアウトされることは免れたが、2番目に脱落し9番手グリッドとなる。

決勝朝のウォームアップ走行でも、違うセットを試したが、あまりいいフィーリングではなかったため、予選のセットに戻して決勝に臨んだ。

レースはスプリントとはいえ、約4.8kmのツインリンクもてぎのロードコースを23周と長丁場で争われた。スタートは、まずまず決まり8番手でオープニングラップを終えると、前に行くライダーを追っていく。1分50秒台で周回するが、勝負できるころまでマシンを持って行けないでいた。接近戦のまま、レース終盤を迎える。残り2周となったところでペースの上がらない高橋裕紀選手をかわし7番手に浮上。さらに最終ラップには、スローダウンした清成選手、そしてトップを走っていた中須賀選手が転倒したため、2つポジションを上げ5位でチェッカーフラッグを受けた。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「初日の転倒から歯車が狂ってしまっていました。決勝では、タイムを落とすことなくファイナルラップまで区間ベストを出せる状態でした。車体の改善して行く課題も明確になりましたし、パーツがそろい次第、テストして次戦のオートポリスでは、いいレースができるようにTOHO Racing一丸となって頑張ります。今回も多くの応援ありがとうございました」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「レースウイーク初日に転倒もあり、決勝までに、セットアップをうまく進めることができずに予選、決勝とペースを上げることができませんでした。その中で、次戦に役立つこともありました。すぐにオートポリスの事前テスト、そしてレースがあるので、しっかりマシンを仕上げて、いいレースをして、鈴鹿 8 耐に向けていい流れを作っていきたいと思っています」

総監督 福間勇二コメント

「今大会は天候に恵まれ、新型マシンの課題を解決していくことが出来るようにセッティングを試し、より戦闘力を上げていくべく取り組みました。転倒もありましたがデータを得ることが出来ましたので、一つひとつクリアにしていけるよう、次戦、そして 8 耐に向けて全力で取り組んで参ります」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当:野口